週刊文春

2006. 2. 23号掲載

THIS WEEK

プロ野球

# VIPで有頂天の清原が 垣間見せる"巨人トラウマ"

背番号5は譲ってもらったが…



「おう、今日はヤマちゃんが先発か。頼むで！」

宮古島キャンプ某日。この日、最初に打撃投手としてマウンドにあがった山田真実に、清原和博（38）は明るい笑顔で声をかけた。オリックスに移籍し、いつ巨人時代の"暴君"の顔を見せるかが注目されているのだが――。

「囲み取材では冗談も飛ばすし、選手とも終始、笑顔で接しています。巨人の頃の刺々しさとは別人のようですよ」（オリックス担当記者）

上機嫌なのも当然、オリックスはVIP待遇で"おもてなし"しているのだ。

「宿舎のホテルは特別室。球場の控え室も他の選手とは別の、イチローが以前に使用していた小部屋を提供」（同前）。おまけに球場正面に掲げられた名前入りの幟は、中央こそ中村監督だが、その両脇を中村紀とともに清原が陣取っている。町に貼られているポスターも清原一色だ。

球団関係者が打ち明ける。

「球団は"チームの顔"としても働いて欲しいと説得して、本人も了解した。おかげでオープン戦の中継も数、金額とも跳ね上がったよ」

その言葉通り、ケーブル局の番宣収録にまで登場する貢献ぶりを見せ、それでいて練習はベテラン扱いの超マイペース。気分の悪いはずがない。

ところがそんな有頂天・清原だが、さっそく、顔色をさっと変え、周囲を緊張に包む瞬間が。打撃練習で中村紀との揃い踏みの感想を問われると、「（そういう話題は）松井やペタジーニでうんざりやねん」と苦々しく漏らす。北川、大西といった選手と親しくなっている話を向けられると「軍団？　こっちでは作らん。それで巨人を放り出されたんやから」と言い放った。

巨人番記者が解説する。

「彼には相当、巨人でのトラウマがある。乗せるだけ乗せられ、ダメとなったら、とことん叩かれる、巨人独特の苦い記憶が拭い去れていない」

そう聞けば、入団早々に「四番はノリでいい。オレは六番でも」と言った殊勝な"四番辞退"発言も、ダメだったときの予防線と納得。

巨人のトラウマと戦い、その巨人を交流戦で叩きのめすという図式は美しいが……。

「そうなればまた怖いものナシになって、気がつけば"暴君"復活ですよ」（同前）

生活

# 入居条件は「愛犬家」 ペットを飼うなら 分譲よりも賃貸？

このところのペットブームを受け、新築分譲マンションの「ペット可」物件が増えている。不動産経済研究所の調査によると、首都圏のマンションの「ペット可」物件は、五割を突破した。

だが「ペット可」のはずが、入居後しばらくすると飼えなくなった、というトラブルも発生しはじめている。

「管理組合で規約を変更するんです。ペット可マンションでも、実際に飼っている入居者は全体の一割程度で、中では少数派。鳴き声やニオイのトラブルが原因になって、『やはりペットは認めないことにしましょう』と、多数決を取られてしまう。現在はまだ少ないですが、今後、同様のトラブルは急増しそうです」（都内の不動産業者）

また最近のペット可マンションは、犬の足洗い場・ペットサイン付きエレベーターなどを備えているものが多いが、ワンちゃんに言わせれば「不十分」。ペット共生マンション事業を手がけるコンサルタント会社に聞くと、

「フローリングの板材が滑りやすいため股関節脱臼になったり、人間よりタンパク質の多い糞をトイレに流して詰まりの原因になったりします。コンセントの位置を高くすることで、感電のトラブルを避ける工夫なども当社では提案していますが、設備が揃っているのは賃貸物件が主です。分譲ではまだ少ないですね」

「ペット可」物件であっても分譲マンションを選ぶ際には、慎重な見極めが必要だ。

そこで逆に、犬を飼うことを条件に入居者を募集した新築賃貸マンションが登場した。東京・三鷹の「K9 Style One」は、全室抗菌・防臭仕様、ドッグランやペットホテルまで備えた"完全対応型"。2LDKが十九万円と相場より一割ほど割高ながら、十四戸がすぐに満室になった。

「古くなった賃貸物件をペット可にするのではなく、最初から犬好きのコミュニティーとして作りたかった。トラブルもないわけではないですが、みんな犬を飼っているという共通点があれば、理解しあえます」（オーナーの小林氏）

近隣に気兼ねしていては、ペットにまでストレスがかかるという。集合住宅でペットを飼いたいなら、"同好の士"が集う賃貸物件を選ぶのが、今のところ賢い選択のようだ。

ペットとの共生は容易ではない